



方面総監統率方針  
任務の完遂

発行所

〒664  
-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘7-1-1  
電話 072(728)0001

陸上自衛隊  
中部方面総監部広報室

# G20大阪サミット支援

## 山崎統幕長が咲洲を視察

山崎統幕僚長は、6月12日、G20大阪サミットが開催される咲洲（インテックス大阪府）を視察された。



G20大阪サミット会場を視察する山崎統幕僚長（大阪府庁咲洲庁舎にて）

中部方面隊は、6月28日から30日に開催されたG20大阪サミット支援を実施した。

支援に先立ち、自然災害やテロ災害への備えを強化するため、必要な準備訓練を実施するとともに、上級部隊、海空自衛隊、関係他機関等との情報共有に努めた。

6月24日からは、厳戒態勢の会場周辺において支援態勢を確立、円滑なサミット成功に寄与した。



医療施設の開設



緊急時に備え待機する航空部隊



被災者救援訓練

### 災害派遣

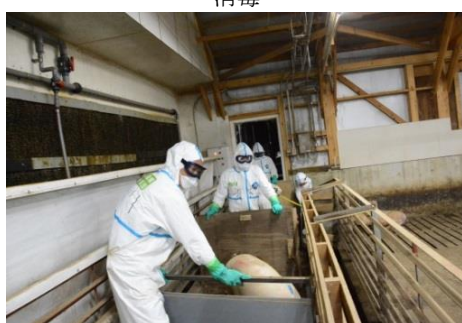
#### 豚コレラ（岐阜県・山県市）

第10師団（師団長 鈴木陸将）は、岐阜県山県市で発生した豚コレラに対する岐阜県知事からの災害派遣要請を受け、6月5日（水）から今年度4回目となる豚の殺処分等の支援を実施した。

豚、約8千頭の殺処分等の支援終了後、6月8日（土）、岐阜県知事からの撤収要請を受け防疫活動を終了した。



消毒



豚の追い出し

### 災害派遣

#### 林野火災（高知県・北川村）

第14旅団（旅団長 小和瀬将補）は、6月21日（金）、高知県北川村で発生した林野火災に対する高知県知事からの災害派遣要請を受け航空機による空中消火活動を実施した。

6月22日（土）山林火災鎮圧に伴い、高知県知事からの撤収要請を受け、活動を終了した。



中部方面航空隊、航空学校保有のCH-47×2機も空中消火を実施

# 第3師団第1次師団訓練検閲

## 第3偵察隊、任務完遂に執念を燃やす！

第3師団（師団長 田中陸将）は、5月28日（火）から6月1日（土）の間、青野ヶ原演習場等において、第3偵察隊（隊長 弓削2佐）に対する、令和元年度第1次師団訓練検閲を実施した。

本検閲は、第3偵察隊に対し、師団の陣地防衛における戦術行動を検閲科目として実施された。

検閲官は、「各級指揮官の継続的かつ的確な状況判断、各人の職責を全うせよ、基本・基礎の確行」の3点を要望され、「部隊及び隊員それぞれが、本検閲までに積み上げてきた練成の成果を遺憾なく発揮し、与えられた任務を完遂することを期待する」と訓示された。



目標地域への前進

受閲部隊は、隊長要望事項である「最善を尽くせ」を合言葉に、3夜4日にわたり、戦闘地域の説明等を継続的に行った。部隊は、作戦遂行に必要な情報を積極的かつ適時に師団長に提供し「師団の耳目」としての任務を完遂した。



監視活動



戦闘地域の説明

# 方面隊施設科合同訓練 第4施設団

障害処理（東富士）・渡河訓練（吉井川）

第4施設団（団長 小谷将補）は、5月28日から30日の間、東富士演習場、6月17日から21日までの間、青野原演習場及び吉井川（岡山県）で「令和元年度方面隊施設科合同訓練」を実施した。

前段の障害処理訓練では、普通科等職種との協同による偵察から戦闘予行、陣前障害の処理等一連の行動について演練した。また、92式地雷原処理車の射撃等の実射訓練に師団の隊員約300名が参加し、方面管内の各普通科連隊施設作業小隊等約30名が訓練を研修した。

また、10年振りに生地の渡河攻撃訓練を行い普通科と施設科の協同要領を演練した。



92式地雷原処理車の投射



人員用通路の開設



重門橋の構築



軽門橋の運用

## 約1,900名がそれぞれの職種部隊へ

# 自衛官候補生 一般曹候補生 教育修了式

中部方面隊は、6月下旬から7月上旬にかけて、方面区内の各部隊（駐屯地）において、平成31年3・4月に採用した一般曹候補生及び自衛官候補生の前期教育の修了式を実施した。

約3か月の教育を終えた隊員たちは、自衛官として必要な知識や技能を修得し、一社会人としても大きな成長を遂げた。

修了式では、多数の来賓、家族等が見守る中、国歌斉唱、修了証書授与、成績優秀者表彰及び修了申告等が行われた。代表挨拶を述べた、第314共通教育中隊（大津駐屯地）平良里紗候補生は、これまでの教育を振り返り、教官、助教への感謝の言葉や同期と切磋琢磨して乗り越えた経験を振り返った。

式に参加した隊員家族の中には、間違えるほどに逞しく成長した我が子に接し、感涙する姿も見受けられた。

修了式を終えた各候補生は、それぞれの配置先部隊で、職種の専門的な教育を更に3か月受け、9月中旬頃から、本格的な部隊勤務を開始する。

深刺とした新隊員の新风により、更なる部隊の活性化を期待したい。



大津駐屯地



姫路駐屯地

# 中部方面音楽隊

## 第51回定期演奏会

中部方面音楽隊は、令和元年5月31日(金)西宮市の兵庫県立芸術文化センターにおいて第51回定期演奏会を実施した。昨年は、第50回の節目となった定期演奏会で歴史と伝統を守りつつ平成最後を締めくくった。今年は、中部方面音楽隊の新たな伝統を築く令和最初の本演奏として迎えた。

プログラムは、第1部で歴史ある我国日本の美しい風土や文化を感じられる法人の曲目を中心に吹奏楽オリジナル曲や行進曲を披露した。第2部では吹奏楽屈指の名曲「リンカーン」や「シヤーの花束」や鶴3曹の歌で「アヴェ・マリア」、そしてクラシックでも人気の高い「ポーロヴェツ人の



鶴3曹による独唱



高度な演奏で観客を魅了

踊り(ダッタン人の踊り)を並べた。特筆すべきは、人気作曲家の清水大輔氏に委嘱した「大地が息吹く」。本演奏会が世界初演である。本曲は、日本や世界各地で活躍する自衛官がひたむきに任務に邁進する姿や厳しい訓練へと臨む姿がイメージされており、自衛官の力強さや信頼感を清水氏の躍動的で颯爽とした音楽により表現した。来場した聴衆からは、「あつと言う間の2時間でした」「サウンドが素晴らしい」などの声が聞かれ、達成感と充実感を与える演奏会であったと自負している。

# オピニオンリーダー・丹櫻会 青森地区研修

## 陸・海・空部隊等を訪問

中部方面隊は、6月12日(火)から14日(木)までの間、青森駐屯地、海上自衛隊大湊基地、航空自衛隊三沢基地及び米軍三沢基地において、オピニオンリーダー・丹櫻会の部隊見学を支援した。青森駐屯地で装備品

等)、海上自衛隊大湊基地で護衛艦「ゆうだち」、航空自衛隊三沢基地及び米軍三沢基地でF2及びF16戦闘機をそれぞれ研修した。参加者は、本研修を通じて陸海空自衛隊の活動を理解するための資を得た。



装備品展示 (青森駐屯地)



護衛艦「ゆうだち」 (大湊基地)



概況説明 (三沢基地)



F16戦闘機 (米軍三沢基地)

# 在日米陸軍連絡将校 離任

## ジョーセフ・M・エイジス少佐

6月6日(木)、総監部において、在日米陸軍連絡将校エイジス少佐の離任行事を実施した。エイジス少佐は、平成28年6月から約3年間勤務した。在任間、持ち前の明るさと、協調性、高い日本語力を生かした

丁寧な業務により、中部方面隊と在日米陸軍との相互協力の推進及び相互運用性の向上に多大な貢献をした。

離任後は、太平洋陸軍司令部(ハワイ州ホノルル市)で勤務する。



離任挨拶



総監と固い握手

# 奉仕活動／地域とともに

## 伊丹

真田山陸軍墓地清掃  
6月1日(土)、伊丹駐屯地修親会(会長 木口陸将補)は、真田山旧陸軍墓地(大阪市天王寺)において会員約160名で清掃奉仕活動を実施した。

真田山墓地は、明治4年に創設された日本で最初の陸軍墓地で第1・2次世界大戦において祖国のために殉職した英霊が祀られている。

修親会は、今後も奉仕活動を継続的に実施していく。

## 西川

ナイチンゲール像清掃  
5月9日(木)、川西駐屯地修親会及び駐屯地曹友会は、ナイチンゲール像及び看護婦慰霊塔(川西市内)において会員約40名で清掃奉仕活動を実施した。

この奉仕活動は、5月12日の「看護の日」にあわせ、世界に2体しかないナイチンゲール像に、地域住民等が顕花に訪れることから川西市役所福祉課と連携して実施した。

# ふあみさほ通信

(連載:第31回)

福知山駐屯地業務隊

福知山駐屯地業務隊は、京都府北部を担当地域として、関係外部団体(京都府自衛隊家族会、同家族会福知山・舞鶴・綾部・宮津・京丹後・亀岡支部)及び福知山自衛隊隊友会)と連携して、家族支援施策に取り組んでいる。

平成28年度、当初駐屯地近傍の家族会福知山支部及び福知山隊友会が主体となつて、各部隊等と連携した安否確認訓練を実施、その実績を積み上げた。平成30年以降は、地域を拡大し、京都府自衛隊家族会会長及び各支部会長の参加を得て定期的に会同を行うとともに、南海レスキュー訓練に併せた訓練要領を綿密に調整する等、更



家族支援に関する会同の様子

なると、毎年恒例の家族支援行事「絆農園」(家族会福知山支部主催)においては、隊員家族と家族会会員との顔合わせを逐次行っている。今年6月には令和初の開催とあって、過去最多の147名(隊員家族42世帯127名、家族会会員20名)の参加を得た。野菜の収穫を通じた和やかな雰囲気の中、隊員家族と家族会との共助意識の芽生えを感じる印象深い「絆農園」となった。

今後とも関係部外団体との連携を更に強化して、家族支援施策の実効性を向上させていきたい。



絆農園の様子

また、今年6月には令和初の開催とあって、過去最多の147名(隊員家族42世帯127名、家族会会員20名)の参加を得た。野菜の収穫を通じた和やかな雰囲気の中、隊員家族と家族会との共助意識の芽生えを感じる印象深い「絆農園」となった。

平成31年3月23日付で第14偵察隊前任上級曹長に上番した門田曹長です。2年後に定年を迎える古参隊員ですが、精強な偵察隊のために全力で職務に取り組んでいるところです。

## CSMの提言



第14偵察隊  
(善通寺駐屯地)  
前任上級曹長  
曹長 門田 良司

さて今回、投稿の機会を得ましたので、私が大切にしている「笑顔」の活用について提言させていただきます。

私が、20数年前に子供と一緒に野球教室に通っているときでした。「自衛官の方は笑わないのですか?」と言われた事があり、とてもショックを受けました。自分自身の心に余裕がなく面白いことや楽しいときに笑顔が出なくなっている自分がそこにいました。そのような苦い経験もあり、「笑う門には福来る」を思い、私自身プライベートや職務に多種多様な難局を抱えることもありましたが笑顔を作ることを意識して、自分自身を変えよう努力して参りました。

その結果、笑顔を意識することで、職務においても部下隊員に対し、労いの言葉をかけたり、隊員の悩みを聞いたり、他人に接する時も自然と振る舞いに変化が生じてきました。そのような経験から、少しの笑顔が大きくなり多くの隊員が本当に笑うことができるようになれば、悩みも軽減し各種訓練も笑顔で乗り切れる精強な部隊ができるのではないかとこの論が生まりました。しかしながら、時と場合をよく考えなければ「笑顔」が諸刃の剣となり得ることは皆さんもご承知だと思えます。そのため、笑顔で敬礼、笑顔で答礼をモットーに常に相手の立場になって考え、笑顔で部隊の雰囲気向上させて強靱な第14偵察隊の歯車の一部となれるよう努力しております。

## 地本のチカラ (連載第10回:鳥取地本)

自衛隊鳥取地方協力本部(本部長 1等陸佐 青木秀敏)は、令和元年5月27日(月)鳥取城北高校において、全校生徒約600名(教職員及び鳥取県教育委員会関係者2名を含む。)に対し、生徒らに「災害発生時に留意すべき事項」を伝えるとともに「命の大切さ、尊さ」を伝えてもらう目的で防災講話を実施した。

講師は本部長と第8普通科連隊(横井千絵3等陸曹・鳥居紗希3等陸曹)2名の女性自衛官が務めた。女性自衛官は鳥取中部地震での活動状況を紹介し、本部長は、自身が経験した南三陸町における東日本大震災での災害派遣活動状況や鳥取沖断層地震に伴う津波の災害予測を通じて、自ら身を守るためにどう対応すべきかについて訴えた。また、南三陸町防災対策庁舎の防災無線に携わった町職員の話や雲仙普賢岳に関する長崎県知事の「使命感」に触れた式辞等の話を織り交ぜ、命の大切さ、尊さについて話を展開し、参加者は熱心に耳を傾けた。

講話後のアンケートには生徒から「家族と共に、災害への備えについて話し合います」「生命が一番大事で、その生命は誰かの使命感で守られているのだと思つた」「自衛隊に興味が増えました」などの感想があった。鳥取地方協力本部は、防災講話実施校を拡大し、防災講話を通じた地域の防災意識の向上と自衛隊への理解深化に努めている。



講師を努める横井3曹